学校通信　平成30年度　10月号
オリンピック・パラリンピックアワード校（東京都教育委員会）
東京2020オリンピック・パラリンピック教育実施校　コオーディネーショントレーニング地域拠点校

しのみや

杉並区立四宮小学校
平成３０年９月２８日

平成３０年度学力調査等の結果について

主幹教諭　　亀山　奈津紀

平成３０年度の学力調査等の結果をお知らせいたします。杉並区の「特定の課題に対する調査」は３～６年生が対象で３・６年生は国語・算数の２教科、４・５年生は国語・算数・理科の３教科で実施、都の「児童の学力向上を図るための調査」は５年生が対象で国語・社会・算数・理科の４教科で実施、国の「全国学力・学習状況調査」は６年生が対象で国語・算数の２教科で実施されました。

１　杉並区「特定の課題に対する調査」結果

杉並区の「特定の課題に対する調査」は、杉並の子どもの学力の実態を基に、区全体で定着が不十分な傾向がある領域に重点を置いて行った学習状況調査です。そのため、国・都の調査と比較してかなり難易度が高くなっています。（▼は杉並区の平均値を下回っている。）

３０年度	３年		４年		５年		６年	
	本校	杉並区	本校	杉並区	本校	杉並区	本校	杉並区
国語	50.7	47.6	60.0	59.4	56.7	54.4	▼63.1	65.3
算数	65.6	62.2	▼62.2	65.0	65.6	63.0	▼58.6	62.1
理科			▼67.8	68.2	63.4	61.4		

２　都「児童の学力向上を図るための調査」結果

３０年度	国語		社会		算数		理科	
	本校	東京都	本校	東京都	本校	東京都	本校	東京都
５年生	75.6	68.1	77.8	71.8	67.3	60.7	77.6	72.2

３　国「全国学力・学習状況調査」結果

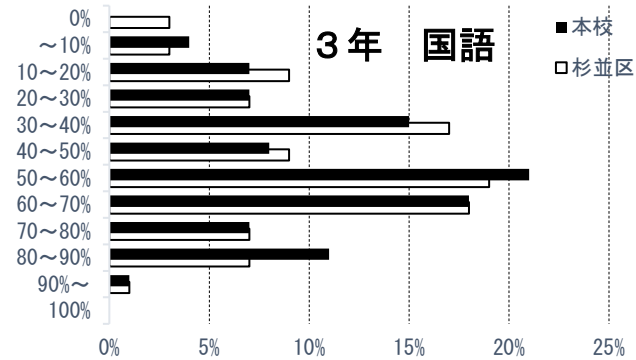
３０年度	国語Ａ（主に知識）			国語Ｂ（主に活用）			算数Ａ（主に知識）			算数Ｂ（主に活用）		
	本校	都	国	本校	都	国	本校	都	国	本校	都	国
6年生	79.0	76.0	74.8	64.0	60.0	57.5	83.0	81.0	78.6	53.0	49.0	45.9

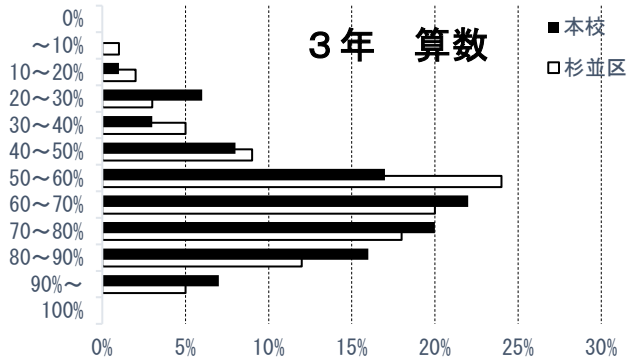
国や都の調査結果を見ると、本校の５・６年生はほとんどの教科で平均を上回っていることが分かります。

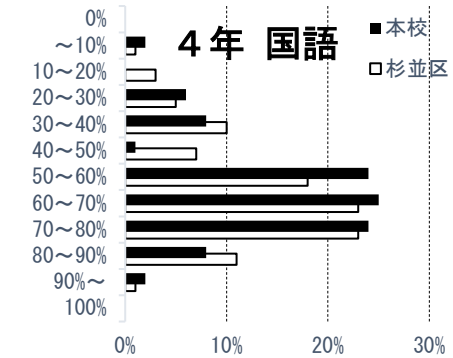
しかし、区の調査からは、本校の児童の学力は区内では中間的な位置より国語、算数ともに若干下位にあるのではないかと推測されます。

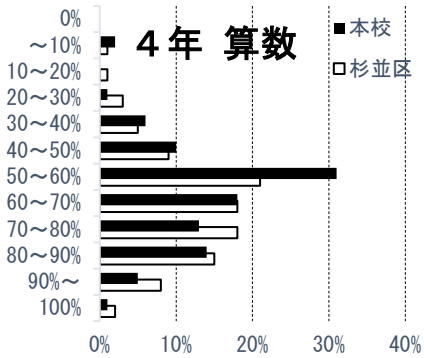
四宮小では夏季休業中に区の学力調査の結果を基に一人一人の子どもの学力の特徴を分析し、学力向上に向けての課題を明らかにして、授業改善の方策を考察しました。

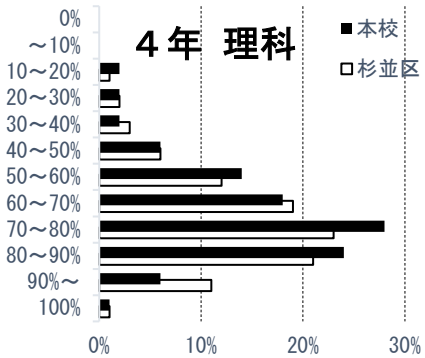
４　区の調査における各学年の正答率の分布

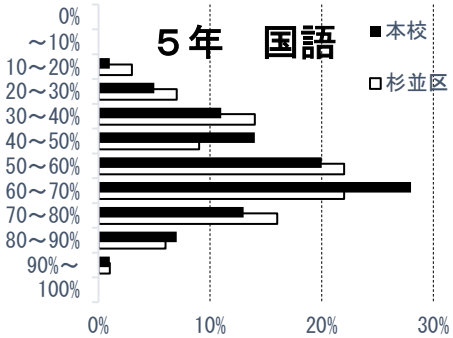


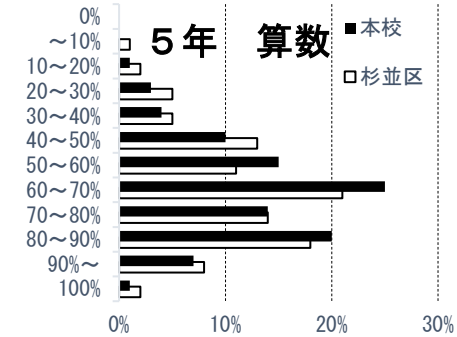


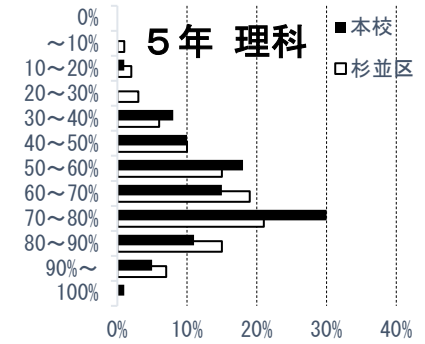


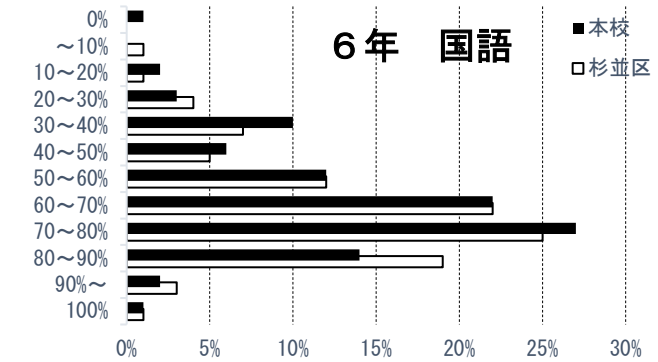


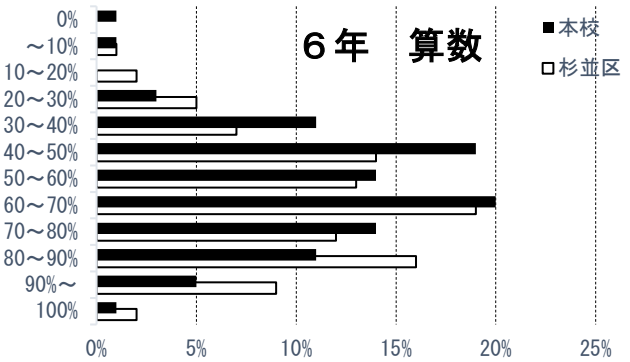












【国語】中学年ではほぼ区平均に達しているかそれ以上ですが、高学年では特に応用問題でつまずきが多い傾向が見られます。話す・聞く領域では要点を聞き取ること、書く領域では自分の考えを書くこと、読む領域では登場人物の心情を読み取ることに課題があります。授業では、自分の考えを書くことや書いた内容を生かして交流する活動を取り入れ、考えを深める指導にこれまで以上に取り組んでいきます。

【算数】３年生は区平均を上回っていますが、４・５年では応用問題、６年では基礎問題で区平均に達していません。また、いずれの学年も数学的考えを問われる問題を苦手としている児童が多いことが分かりました。授業では、習熟度に合わせた少人数指導を活かして、ドリル学習を十分に行うことで基礎の定着を図るとともに、考えを深めたり確かめ合ったりする学習を大切にしていきます。

5　各学年の課題と改善策

（1）国語

	課　題	改　善　策
3年	・点数の伸びなかった児童は、話すこと・聞くこと、書くこと、言語事項など基礎・基本の定着が不十分である。 ・大事な言葉や文を書き抜くことや文末表現を正しくすることに課題がある。	・音読、漢字練習を通して基礎学力の定着を図るとともに、自分の考えをもてるようなワークシートの活用をする。 ・文章を正しく書き抜くために、自分の書いた言葉や文章を見直したりする習慣を定着させる。 ・読書を推奨する。（読書目標 3000 ページ）
4年	・読むこと、言語事項への理解が不足している。 ・文章の間違いを正したり、読み取ったことを基に自分の考えを書いたりすることに課題がある。	・漢字学習の際に短文作りをさせるなどして、語彙力や文法力を身に付けさせる。 ・構成を考えて文を書いたり、書いた文を推敲したりする力を身に付けさせる。 ・読書を推奨する。（読書目標 4000 ページ）
5年	・分からない点を質問したり、語句の類別を捉えたりすることが苦手な児童が多い。 ・説明的文章、文学的文章ともに文章の読み取りに課題がある。 ・より良い表現に書き直したり、書き方の工夫を見付けたりすることに課題がある。	・日常的に辞書を活用して語彙を増やすことで言葉の意味を理解できるようにする。 ・文章の書き方を提示し、書き方についての理解を深めさせるとともに、文章を書く機会を意図的に増やしていく。 ・読書を推奨する。（読書目標 5000 ページ）
6年	・言語事項において重文を単文に分けることに課題がある。 ・文章を読み取り自分の考えをもったり、登場人物の心情について考えたりすることへの理解が不足している。 ・文章構成の効果への理解が不足している。	・文章を要約したり、事実と自分の考えを区別して書いたり、書いたものを読み合い交流したりすることで更に理解を深められるようにする。 ・段落やキーワードを意識して文章を読み、自分の読みをもたせるように指導する。 ・読書を推奨する。（読書目標 6000 ページ）

（2）算数

	課　題	改　善　策
3年	・四則計算などの基礎的な計算の技能が不十分な児童もいる。 ・三角形の構成や加法や減法についての活用問題への理解が不足している。	・ドリル学習を十分に行い、基礎的な技能を定着させる。 ・具体物を用いて図形に関する理解を深められるようにするとともに、作図の仕方や定規の使い方を繰り返し指導する。
4年	・四則計算はできても、問題をよく読まずにミスするなど定着が不十分な児童もいる。 ・円の性質、円と三角形に関する問題や規則性を見付ける問題への理解が不足している。	・ドリル学習を十分に行い、基礎的な技能を定着させる。 ・既習事項を確認しながら問題に取り組ませるとともに、自分の考えをしっかりともち、それを分かりやすく伝えることを通して学習への理解を深めていく。
5年	・学び残しのある児童の基礎・基本の力を高める必要がある。 ・面積の単位や数の大小を問う問題、活用問題に課題がある。	・既習事項に繰り返し取り組ませ、技能を定着させる。応用問題では既習事項を活用し自分の考えを言葉で説明する活動を多く取り入れる。 ・ノート指導を丁寧に行い、自分の考えを筋道立てて書き、学習理解の定着を図れるようにする。
6年	・数と計算、数量関係に関する問題への理解が不足している。中でも、奇数のきまりを考える問題や割合の問題に課題がある。 ・数学的な思考力・表現力を高める必要がある。	・既習事項の復習に繰り返し取り組ませ、知識や技能を定着させる。 ・図や言葉を用いて自分の考えを説明させることで概念についての理解を深めさせるとともに、互いに考えを広げたり深めたりできるようにする。